

【令和5年度 授業改善推進プラン】

板橋区立 志村第六小学校

【国語】

<p>■児童の状況と指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○話の中心に気を付けて聞き、自分の感想をまとめたり、質問したりすることが苦手な児童が多い。 ○語彙が少ないために、自分の思いや考えを相手に伝えるように文章を書いたり、話したりすることが難しい児童がいる。また、文章を書くことに対する苦手意識が強い児童が多い。 ○漢字の読み書きや言葉のきまりに関する基礎的な知識の定着、主語、述語、修飾語の理解が不十分な児童がいる。 ○文中における修飾と被修飾の関係を捉えることが苦手な児童が多い。 <p>【全国学力・学習状況調査から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○評価の観点でみると「知識・技能」は、全国より1.4ポイント上回ったが「思考・判断・表現」は、全国より0.8ポイント下回った。 ○原因と結果などの関係について、理解することをみる問題では、区・都・全国の正答率を下回った。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で使う問題では、都や全国を8ポイント上回った。 ○「話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えること」に関する問題で、本校の児童の無回答率が高い傾向がある。これは、全国でも同様の傾向が出ている。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な情報の中から原因と結果の関係を見だし、結び付けて考える学習活動の展開を工夫していく。 ○複数の資料から根拠を見つけて考えることや判断する活動を取り入れていく。 ○相手の話の意図を捉える授業や自分の考えを根拠をもち説明する授業など、これまで以上に言語活動を大切にする授業を全学年・全学級、全教科等で取り組んでいく。 ○「話を聞く」「考える」「自分の考えを伝える」場面を意図的に取り入れ、様々な考え方や自分とは異なる意見に触れる活動を増やす。 ○教科書巻末等にある言葉についてのページを活用した学習を取り入れ、多様な語彙に触れる機会を増やす。また、分からない言葉があったときには自分で調べたり、国語辞典を引いたりする機会を設ける。 ○書き方の例文を提示し、条件に合った文章を書いたり、発表の文を書いたりする活動を増やす。また、構成メモの作成など、文章を書く前に内容の準備や検討が十分にできるよう指導計画を立てる。 ○語句指導では、語句の意味理解の他、語句の使い方の練習をしたり、他教科でも積極的に学習した語句を使ったりするようにする。

【社会】

<p>■児童の状況と指導についての課題</p>	<p>○調べたことや考えたことを文章や言葉で表現することを苦手とする児童が多い。</p> <p>○児童自身に問いをもたせ、その問いを解決したいという意欲をもって問題解決型学習が十分ではない。</p> <p>○既習事項を使って問題解決にあたることができない児童が多い。</p> <p>○資料やグラフからの情報を比較したり、読み取った情報を分類したりすることが課題である。</p> <p>○さらに「知りたい」「なぜだろう」などのような、次時につながる振り返りをすることに苦手意識をもっている児童が多い。</p>
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>○調べる段階では、「何を読み取るのか」をしっかりと捉えさせることができるような発問の工夫を行う。また、読み取ったことから何が分かるのかを考え、深めさせる時間を十分に確保する。</p> <p>○友達の考えを参考にしながら自分の考えをもったり、考えを更に深めたりできるように、ペアやグループで考えたり、話し合ったりする活動を効果的に取り入れる。</p> <p>○児童の興味・関心を高めるような資料を用意したり、資料の提示方法を工夫したりすることで、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。また課題を児童が見付け、それをどのように解決していくかを、問題解決型学習を行う。</p> <p>○児童の理解を深められるように、デジタル教科書の活用の仕方を工夫する。</p> <p>○児童の疑問や経験を大切にしながら、児童同士が共に課題を探究し、学び会おうとする指導を展開する。</p>

【算数】

<p>■児童の状況と指導についての課題</p>	<p>○計算の基本的な技能は多くの児童が身に付いている。文章題などは、簡単なものは正しく立式できるが、どのような文章題でも正確な演算決定ができる児童は少ない。</p> <p>○分数・小数などの数の仕組みや構成の理解が不十分だったり、長さや重さなどの量の表し方が不正確だったりする児童が見られる。</p> <p>○自分の考えを図や式、言葉などでノートに表すことはできていても、発表することをためらってしまう児童がいる。学び合いがクラス全体のものになりにくい。</p> <p>【全国学力・学習状況調査から】</p> <p>○評価の観点でみると「知識・技能」は全国より3.3ポイント、「思考・判断・表現」は、区を1ポイント、都を0.5ポイント、全国を5.2ポイント上回った。</p> <p>○台形の意味や性質について問う問題で正答率が都や全国を下回った。</p>
-------------------------	--

	<p>○筆算について図を基に、商の意味を考える問題で、区・都・全国より正答率が大幅に上回った。</p> <p>○「表から条件に合う数を読み取ること」に関する問題で、本校の児童の無回答率が高い傾向がある。</p>
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>○授業の中でタブレット端末を積極的に活用し、様々な情報の中から自分が必要とする情報を選択する力を身に付けられるよう、工夫していきます。</p> <p>○図形について、その意味や性質を基に分類する活動や、何に着目して分類しているのか、図形の意味や性質を基に、自分の考えを説明し合う活動を、全学年で取り入れていく。</p> <p>○算数の授業だけではなく、何を根拠に考えたのかを表現する授業を全学年で行う。</p> <p>○毎時間のめあてを明確にし、学習の流れを提示するなど、見通しのもてる分かりやすい授業をする。また、振り返りやたしかめ問題に取り組む時間を最後に設けて、1時間の中で学んだことをしっかりと認識できるようにする。</p> <p>○重さや長さなどの量感を養ったり、分数・小数の数の仕組みや構成を理解したりできるようにするために、具体的な操作活動や体験活動を取り入れる。</p> <p>○主体的・対話的な学習ができるようにするために、問題解決型の授業を展開し、問いから自分の考えをもたせ、それぞれの考えや解き方を、根拠をもとに発表し合う場を多く設ける。</p> <p>○学んだことを生かして自力解決ができるように、東京ベーシックドリルなどを活用して、学習の始めに既習事項を振り返る時間を設け、学んだことをもとに自力解決ができるよう支援する。</p> <p>○ペア・小グループの学習形態を取り入れ、児童が主体的に発表や活動ができるようにするとともに、ホワイトボードや電子黒板を活用して、発表しやすい環境を整え、考えの共有化を図る。</p> <p>○授業の中でタブレット端末を積極的に活用し、様々な情報の中から自分が必要とする情報を選択する力を身に付けられるよう工夫する。</p> <p>○算数のよさを実感できるように、学習したことを他教科や生活の中で活用している場面を想起させる。</p> <p>○教科書を丁寧に読み、問題の意味や必要な情報などを正しく理解してから課題に取り組むようにする。</p> <p>○正しく計算する力や図形の性質を捉える力を伸ばす取組にも重点を置き、更なる学力向上を図っていく。</p> <p>○A層とC層の割合がふたこぶラクダのような状況であることも踏まえ、授業の導入部分では、前時や既習の学習内容を扱うことや学習の振り返りの場面を丁寧に扱うことで、基礎的・基本的な学力の定着を図る必要がある。</p>

【理科】

<p>■児童の状況と指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○実験や観察など意欲的に行い、進んで学習に取り組んでいる児童が多くいる。 ○生活経験を生かし、予想することができる児童がいる。 ○実験の方法や科学的用語の定着させることに課題がある。 ○実験や観察を通して、結果から分かったことをまとめるときに表現することが苦手な児童がいる。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の始めや予想する場面では、授業と生活を結びつけて、児童の身近なものに感じられるようにする。 ○まとめを書く時間には、めあてに戻って考えること、主語を明確にすることなど声かけを必ず行う。 ○科学的用語を学習中に使用し、必要な用語を用いて、実験や観察の結果をまとめられるようにする。 ○実験の結果と考察を自分の言葉でアウトプットする習慣を身に付けさせ、科学的思考の定着を図る。

【生活】

<p>■児童の状況と指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○何事にも興味や関心をもって取り組む様子が見られるが、活動が楽しかったと感想だけに留まってしまう児童が多く見られる。 ○引き続き、観察する力は視点をもたせることで詳しく観察できるようになってきた。 ○学習の中で新たな疑問や気づきを発見しようとする意欲が低かったりする。 ○学級内においても生活経験の差があり、学びの深さに差ができてしまう。 ○タブレット端末の活用として、植物や昆虫などの撮影をして、学習に取り入れている。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○一つ一つの活動に意味をしっかりと持たせる上で、めあてを明確にして、めあてが達成したか常に自己評価できるようなワークシートや振り返りを行うようにする。 ○注目するポイントを口頭だけでなく掲示するなどして、視点をしばって記録用紙に書かせるようにする。 ○児童同士気づいたことを話し合い、気づきの質や表現を高めさせる。 ○単元におけるねらいに即した、「なぜだろう。」という児童の素朴な疑問を導入や終末に出して、次の学習への意欲を高めさせる。 ○家庭と連携しながら、できるだけ体験活動を取り入れ、経験値を増やしていく。 ○タブレットの機能を活用しながら、観察したことをまとめたり、全体で共有したりする活動を高めていく。 ○小中学びのエリアで「総合」の学習につながるように、身近な地域の様子についても適宜、発信していく。

【音楽】

<p>■児童の状況と指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○器楽では、打楽器の音色を楽しみながら拍にのって意欲的に活動できる児童が多い。 ○鑑賞では、音楽に興味をもち、積極的に意見を発言するなど、活動できる児童が多いが、自分の感じたことや気付いたことを言語化できない児童もいる。 ○歌唱では、前年度の感染症対策の影響で積極的に声を出す児童が少なく、正しい音程や発声で歌うことに課題を感じる。
-------------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ○リコーダー演奏と歌唱について、基礎的な面から丁寧に指導する必要がある。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の心情、発達段階に合った教材を選択し、個別指導をするなど、指導を工夫する。 ○自分の思いや感じたことを言語化できるよう、新しい教材に進む度に曲を聴いた感想や曲想を考える時間と意見交流の時間を設け、様々な感じ方や表現ワードを知る機会を増やす。 ○様々な音楽を聴いて、児童同士で意見を交流することで、自分が感じたことや考えたことを伝える力を身に付けさせる。 ○正しい奏法が身に付くよう基礎・基本を大切にした指導を繰り返す。 ○歌唱単元では、正しい発声と音程に特に重点を置き、常時活動として発声練習を取り入れる。基礎的な力を身に付けることによって、「歌うことは楽しい」と思えるよう活動内容を工夫する。 ○マスク越しにリコーダーや鍵盤ハーモニカを演奏できるホースを活用したり、家庭学習との連携を図ったりして指導を進める。

【図画工作】

<p>■児童の状況と指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分や友達の作品のよさを伝え合い、気付いたことを表現できている。 ○多様な表現や個性を認め合う関係をつくり、安全面に配慮した授業を行う必要がある。 ○技能的に個人差が大きく、個に応じた配慮を要することも多いため、題材の設定や児童の動きを考えた指導の工夫が必要である。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が見通しをもって活動できるように、本時のねらいと活動の流れを必ず示す。 ○鑑賞で、対話的な活動やICT機器の活用を取り入れる等、授業形態を工夫し多様な表現を認め合う機会を設定する。 ○デジタル機器を活用した、技能面の指導により、全ての児童に対して作業の進め方やポイント、安全面で気を付けること等を視覚的に分かりやすく示す。

【家庭】

<p>■児童の状況と指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○裁縫や調理に興味がある児童が多い。 ○昨年度、実習を行っていなかったこともあり、技能の定着度に差がある。 ○ミシンが身近でないため、技能を習得するまでにばらつきがあることが課題である。 ○家族が健康で気持ちよく生活するために、家族の一員としての意識を高められるようにすることが課題である。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○実践的・体験的な学習活動を計画的に、より多く取り入れる。 ○確実に基礎的・基本的な技能が身に付けられるように、友達との伝え合いの時間を取ったり、スモールステップで指導したりする。 ○実習等で具体的に体験したことを、自分の生活の中に生かしてい

	<p>けるように、振り返りの中で実生活と関連付けて考えさせるようにする。</p> <p>○家族の思いや家庭の仕事の必要性に気付くことができるように、家庭学習で家族へのインタビューなどをする機会をつくる。</p>
--	---

【体育】

<p>■児童の状況と指導についての課題</p>	<p>○コロナ禍で運動経験が少なくなっており、様々な動きをスムーズに行うことが困難な児童が多くなってきている。</p> <p>○体カテストにおいて、ソフトボール投げと長座体前屈に課題が見られる。</p> <p>○主運動に入る前に、めあてや運動のポイントを把握させる必要がある。</p> <p>○楽しさが先行し、規則やルールを守れなかったり、安全への意識が低かったりする児童がいる。</p> <p>○運動が好きな児童と嫌いな児童の差が大きいため、学習活動に取り組む意欲にも差が生じている。</p> <p>○日常生活における運動経験が少ない児童が多い。</p>
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>○ボール投げの機会を増やすため、体育の授業で、ボールに触れる機会を意図的に増やす。（ボール投げ運動を定期的に行う）</p> <p>○長座体前屈の数値に課題が見られるため、家庭等で日常的に柔軟性を高められる運動を紹介し、情報提供する。</p> <p>○必ず自分やチームのめあてをもたせ、その達成や自分たちの成長に気付くために競い合う場面を取り入れていることを児童に理解させて、指導を行う。</p> <p>○ルールを押しつけず、学習を進めていく上で全員が楽しめるようなルールや決まりをみんなで話し合いながらつくっていくことで、ルールや安全を守る意識をもたせる。</p> <p>○能力に応じて様々なルールや場、動きのポイントを掲示する。</p> <p>○タブレット端末を活用し、動画を見せ、自分の動きを撮影して、正しい動きができるようにする。</p> <p>○チームでの学習では、友達同士で見合う活動を取り入れ、運動経験の豊富な児童がアドバイスをするような機会を増やす。</p> <p>○運動の日常化を図るために、なわとびカードなどのめあてをもたせやすい学習材を活用し、目標や課題を意識しながら、興味をもって活動に取り組ませる。</p>

【特別の教科 道徳】

<p>■児童の状況と指導についての課題</p>	<p>○児童の活発な意見交流ができるようにする必要がある。</p> <p>○登場人物の心情だけではなく、自分のこととして考えながら、多角的・多面的に考える必要がある。</p> <p>○道徳ノートを適切に活用し、児童の変容を確実に見取っていくようにすることが必要である。</p> <p>○ねらいに迫るために教材提示の仕方を工夫していく必要がある。</p>
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>○道徳的価値項目について考える動機付けを図り、自分のこととして捉えられるように授業を展開していく。</p> <p>○課題について児童一人一人が自分自身の問題として捉えたり、各場面における道徳的価値の意味を考えられたりする発問や板書を工夫する。</p> <p>○登場人物の心情の読み取りに偏らず、内容項目の諸価値を考える学習、問題解決的な学習を行い、国語科の学習との違いを意識した授業を行う。</p>

【外国語・外国語活動】

<p>■児童の状況と指導についての課題</p>	<p>○外国語に興味をもち、友達とのコミュニケーションを楽しんでいる様子である。一方で、英語の音を聴くのに苦手意識をもつ児童もいる。</p> <p>○ALTとの交流を通して外国や異文化への興味・関心を高めている。ALTの来校日数が限られているため、児童との接点を増やしていきたい。</p> <p>○文字指導や、フォニックスの指導は3年生から段階的に、継続的に行っているが、書くことに対しては個人差が大きい。特に小文字については、認識に時間がかかる。</p> <p>○タブレットの活用した発表形式では、相手意識が希薄になったり、本来の目的と違ってしまったりすることがある。また、作成するのに夢中になり、会話の時間が少なくなることがある。</p>
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<p>○5、6年生では、デジタル教科書を活用し、イヤホンを使用し、個人のペースで語彙の習得に取り組めるようにしていく。</p> <p>○ALTの良さを生かした指導計画を作成し、効果的な場面でALTを活用し、授業を組み立てていく。英語ルームの廊下に、外国の文化や習慣を紹介するEnglish cornerを作成し、児童がいつでも掲示物を見たり、ALTと交流できたりする機会を増やしていく。</p> <p>○文字指導については、アルファベットの名前読み、音、ヘボン式ローマ字など、段階的に指導を行い、6年生修了時まで習得させていく。</p> <p>○児童が自分の思いや考えを伝えるための補助ツールとして活用できるよう、本来の目的や趣旨を伝え、適切な使用ができるよう指導していく。</p>

【総合的な学習の時間】

<p>■児童の状況と指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○どの単元も探究的な学習を念頭に置いて設定する必要がある。 ○児童が興味・関心をもって、自ら課題をつくることのできるような、共通の体験や魅力的な学習材の工夫が必要である。 ○体験活動には意欲的に取り組むことができるが、体験を通して自ら課題をつくるのが難しい。 ○調べる活動が、インターネットだけ、図書資料だけという、調べ方に工夫が見られない児童がいる。 ○情報を集めたり、まとめたりするためのICT機器の活用能力は、個人差が大きい。 ○課題が多岐にわたり、個に応じた支援が難しい。 ○地域の実態に応じた教材や単元が少ない。
<p>■授業革新推進に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○どの学年でどのような力が身に付いているのかを確認しながら、他教科や実生活との関連を図って単元作りをしていく。 ○探究のサイクル(課題の設定→情報の収集→情報の整理・分析→まとめ・表現)を繰り返すことのできる指導計画を考える。また、前年度の指導計画や内容を基本にし、児童の実態に合わせて見直すなどの工夫をする。 ○学びのエリアで情報交換をしながら、共通の単元に取り組んだり、交流を取り入れたりする。 ○関係する地域の外部機関との連携を図り、体験的な活動を充実させる。 ○フィールドワーク等を行い、教職員も地域にあるものや伝わるもの、特色などにふれ、より地域のことを知り、指導に生かせるようにする。 ○インタビューやアンケート調査など多様な情報収集の方法を紹介し、集めた情報の整理・分析の時間を十分に設定する。 ○アウトプットの方法を紹介し、多様な表現の方法を身に付けられるような計画で学習に取り組ませる。 ○一人一台端末を活用し、児童の課題や学習状況を見取る。児童と一緒に考えたり、具体的にアドバイスしたりするなど児童の学習活動の実態に応じた支援を行うようにする。